

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ホテルルートイン 丹波篠山	階数	地上3F
建設地	兵庫県丹波篠山市	構造	S造
用途地域	市街化区域、22条地域、特定基準	平均居住人員	XX 人
地域区分	5地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年6月 予定	評価の実施日	2023年5月1日
敷地面積	4,202 m <sup>2</sup>	作成者	丸岡
建築面積	1,518 m <sup>2</sup>	確認日	2023年5月17日
延床面積	3,664 m <sup>2</sup>	確認者	古橋



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 76%  
③上記+②以外の 76%  
④上記+ 76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 3.0

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.5

### LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> ・外部に面する断熱材を、外壁部分はt50グラスウール充填、屋根下の天井はt200吹付断熱、スラブ裏はt50発泡ウレタン吹付とし、サッシはペアガラスとすることで、外気影響による室内の温度変化を少なくなるように努めた。 ・快適な室内環境となるよう設計し、外気影響を少なくすることで空調設備のエネルギー消費量の削減を図った。		<b>その他</b>
<b>Q1 室内環境</b> ・客室は界壁の遮音壁(TLD-56)とし、騒音の軽減を図った。 ・空調はゾーンごとに制御でき、快適な室内空間となるように配慮した。	<b>Q2 サービス性能</b> ・インテリアデザインは格子などを取り入れ、歴史的な街並みに配慮した和のデザインとした。 ・ロビーは間接照明を多用し、インテリアに配慮した照明計画とした。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・敷地内に緑地帯を多く確保し、植栽によって良好な景観となるように配慮した。 ・中・高木の植栽計画を行い、敷地内歩行者への熱環境緩和に努めた。
<b>LR1 エネルギー</b> ・建物外皮の熱負荷抑制における[BPI][BPI <sub>m</sub> ]を0.72とすることで、日射や室内外の温度差による熱取得・熱損失の低減を行い、冷暖房の仕様エネルギー量削減に努めた。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水コマのみならず、省水型機器を過半数以上の機器に採用することで、建築物全体の節水に努めた。 ・躯体と仕上げ材を、躯体+軽量鉄骨下地+仕上げ材と分別可能とすることで、部材の再利用促進のために努めている。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・燃焼機器を使用せず、対象建築物から外部空間に対して大気汚染物質を発生しないことで周辺の地域環境に配慮した。 ・地表面被覆材に配慮し、緑被率や中・高木の水平投影面積率を45%以上を確保することで、敷地外への熱的な

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される